

中国海軍は、海南島に空母及び核潜水艦用地下式弾薬庫を建設中

漢和防務評論 20110918

KDR 編集部特電：

中国海軍は、海南省三亜市亜龍湾に南海艦隊第 2 核潜水艦支隊及び駆逐艦・護衛艦支隊基地を建設するとともに、この場所にアジア最大の地下式弾薬庫を建設した。種々の状況から、このように判断される。

かつて KDR は、北海艦隊第 1 核潜水艦支隊基地（注：山東省姜哥庄）における潜水艦用洞窟への水上側出入口は 1 個であり、陸上側出入口は 3 個（一説には 4 個）であると報じた。しかし三亜基地では、潜水艦用洞窟の水上側出口が 3 個、陸上側出口が少なくとも 8 個発見されている。両基地は規模が異なるが、その理由は、三亜が海軍の総合基地であり、将来の空母艦隊用の弾薬補給基地として大規模な工事が行われたからである。KDR が独自に入手した情報によると、中国は、空母・核潜水艦を主体とする南海艦隊の地下式弾薬庫の建設を 2001 年から開始した。主要な艦砲弾薬、魚雷、水雷、艦対艦ミサイル、艦対空ミサイル、水中発射ミサイル等の弾薬は全て地下に貯蔵される。

衛星写真で撮影された洞窟出口の外形を見ると、亜龍湾に建設された地下式弾薬庫は、“通道式”（注：ドライブスルー方式）になっている（中国海軍の地下式弾薬庫には、そのほかに窯穴型、半地下型がある）。

“通道式”とその他の弾薬庫の違いは、“通道式”が必ず 2 個或いは 2 個以上の出入口を持っていることである。弾庫の型には直角型と丸天井型（アーチ型）があり、三亜の地下式弾薬庫は、丸天井型である。情報源によると、中国海軍が建設した地下式弾薬庫は、輕易に使える弾薬庫でなく、使用に当たっては各種の規定がある。地下式弾薬庫は、重型装備用と轻型装備用弾薬に分けられている。轻型装備弾薬は、艦砲弾薬等である。この弾薬庫は、洞庫の入口に長さ 5～8m 幅 2.5～3.0m の積み下ろし用設備がある。しかし艦対艦ミサイル等を貯蔵する大型地下式弾薬庫には積み下ろし用設備はない。

大型弾薬庫は、通常“引洞”と“主洞”で構成されている。引洞は主洞に入るための通路であり、長さは約 25m、高さは 3m、幅は 4.3m である。主洞は主に自動車で出入りする。亜龍湾に建設中の弾薬庫は、少なくとも 4 個の出口が道路に面している。この弾薬庫は、大型弾薬が貯蔵されているため車両の出入りを考慮している。もし弾薬庫の入口が標準的な道路に面していない場合は、小型トレーラーに載せて小型弾薬を運ぶことになるため、この弾薬庫は艦砲用の弾薬及び水雷等のための小型弾薬庫であると判断できる。

軍内の情報源によると、引洞に接続した主洞は、長さが 500m、高さが 3～8m、幅は 8m、10m、12m の 3 種類がある。弾薬庫の内部の大きさは、貯蔵する弾薬の大きさで決められる。各弾薬庫出入口には、二つの防護扉、二つの密封扉、及びいくつかの通風口が設けられている。

中国海軍の全ての地下式貯蔵庫は、二人方式で二重に施錠する方式を採用している。すなわち二重の個人管理方式で、二人が同時に揃わないと進入できない。管理が優秀な貯蔵庫は、表彰され“紅旗倉庫”と呼称されている。

上述の基準は、中国海軍が建設した近代的弾薬庫の一般的な基準である。したがって亜龍湾に建設された地下式弾薬庫は相当規模が大きいことが分かる。核潜水艦に限って見ても、現在、少なくとも 2 艘の 093 型攻撃型核潜水艦が発見されており、ほかに 1 艘の 094 型戦略核潜水艦が今後長期にわたって亜龍湾に駐留するか？監視を続ける必要がある。このことから潜水艦の地下格納庫には少なくとも 5 乃至 10 艘、又はさらに多くの戦略核潜水艦が停泊できる。

このほか 052B/C、053H3、054A 型ミサイル駆逐艦も停泊する。したがって亜龍湾の弾薬庫に貯蔵する必要がある弾薬の種類は、中国海軍で一番多い。弾薬庫の建設期間から推測すると、中国海軍が三亜に空母基地の建設を決定したのは 1990 年代末期であると思われる。

三亜に最先進の艦船、武器及び多種類の水上艦、潜水艦が集中することから、地下式弾薬庫の弾薬貯蔵は複雑さを極めるであろう。艦対艦ミサイルの種類だけでも YJ8-3、YJ6-2 等多種に上る。

防空ミサイルは、HQ-9、HQ-7、SHTIL-1、HQ-16 がある。

艦砲弾は、単/双 100mm、双 37mm、730、AK176M がある。

魚雷は、Y-6/Y-8 その他がある。

その他多目的ロケット砲弾薬、KA-28 が使用する魚雷等がある。

またその他の各種軽型武器及び海軍の地下式弾薬庫の軽型武器は、武器と弾薬を分離して貯蔵している。

以上